

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

正常性バイアス

今週は暖かく穏やかな晴天が続いています。この時期の春のような陽気を「小春日和」と呼んでいます。秋の深まりが日一日と進み、紅葉シーズンが到来しています。

新型コロナウイルス感染症は第3波を迎え、感染者数は全国で増加の一途です。大阪も例外ではありません。私たちは、新しい生活習慣に慣れてきた面もありますが、だからと言って感染防止対策を怠ってはいけません。何事においても大切なことは基本を守ることです。感染防止においては、「手洗い」「マスクの着用」「三密を避ける」といった基本事項に留意しましょう。

今日は合同避難訓練ができませんでしたので、防災に関する「**正常性バイアス**」(校長室だより47号でふれました)について説明したいと思います。新型コロナウイルスにも関連する内容です。

人は日常生活の中で、風が吹いてドアが不意に閉まるとか、卒業後新たなステージに進むとか、様々な予期せぬことやはじめて経験することが起こります。そのたびに大きく反応していると、精神的に疲労してしまうので、人間の脳にはそのような出来事を正常な範囲だと判断し、心を平穏に保つ働きがあるそうです。これを「正常性バイアス」と言います。

ところが、この防御作用ともいえる「正常性バイアス」が、本当に深刻な状況になったとき、逆に人を危険な方向へ進ませることがあります。このような状況に対峙したとき、「**ありえない**」という先入観や偏見(バイアス)が働き、物事を正常な範囲だと認識する心の働きを指します。

新型コロナウイルスの感染拡大は、この「正常性バイアス」による危機感の欠如というものが招いたかもしれません。

災害が起きたとき、「正常性バイアス」によって実際に大きな被害となった例を2つ紹介します。

- ① 甚大な被害を出した東日本大震災では、「あれほど巨大な津波が来るとは想像できなかった」「大地震の混乱もあり、すぐに避難できなかった」と思った人がたくさんいたことが、のちの報道によって明らかになりました。そう話していた人々が住む地域には、10m超の津波を経験した人がいなかった、また大型防潮堤が設置されていたなどの様々な要因があり、迅速な避難行動が取れなかったことも事実です。
- ② 平成30年7月の西日本豪雨災害です。中国・四国地方などで河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、200名を超える死者・行方不明者を出すなど甚大な被害が発生しました。この豪雨が起きる前、気象庁では「大雨特別警報」を発令し、災害発生の危険があることを呼びかけていました。しかし、NHKが被災者310人に対して行なったアンケートでは、「テレビ・ラジオ」がきっかけで避難を決意した人は4.5%と非常に少なく、周囲で浸水や川の氾濫、土砂災害が発生するなど、「周辺環境が悪化」してからの避難が1位(33.5%)という結果となっていました。このように、どれだけ警報を発令していても、実際に身に危険が差し迫るまでは避難を判断しなかったという実態が明らかとなっています。

また、「**同調性バイアス**」という言葉があります。これは「**周りの人と同じ行動をとる**」ことが**安全と考える心の働き**です。特に、日本人はこの働きが強いのかもかもしれません。本来であれば火災などで迷うことなく逃げるべき状況でも、「周りの人が逃げない」から「自分も逃げない」という選択し、結果的に被災する人が増えてしまうというケースもあります。

新型コロナウイルスの感染拡大も一部の人が、娯楽施設に集まったりして「みんながしているから大丈夫」という「同調性バイアス」が働いた結果であるのかもかもしれません。

「正常性バイアス」と同じように、「同調性バイアス」もそのものが悪いというわけではありません。現に「同調性バイアス」は、災害など非常時に一致団結して助け合うということにもつながっています。ここで正しい「判断力」が求められます。「判断力」をしっかりと働かせて「同調性バイアス」で悪い方向へと進まないようにしていきたいものです。